

## 十五年戦争期の女子専門学校国語試験問題

白川哲郎

### 要旨

本稿は、樟蔭学園に遺る資料の中から『検定ニ関スル試験問題集』を取り上げ、国語関係の試験問題について若干の考察を行ったものである。

樟蔭女子専門学校では、1929（昭和 4）年、国文科は国語、家政科は家事、技芸科は裁縫の中等教員免許の無試験による認定の許可を獲得した。『検定ニ関スル試験問題集』は、それに関わって実施された試験問題の控えを綴ったものである。本稿では、紙数の都合により、国文科関係の試験問題を紹介し、そこに見出される特徴について検討した。

その結果、国文科関係の試験問題においては、（1）日本・中国のいわゆる古典文学に関する豊富な知識が求められていたこと、（2）明治期以降の文学を文学史の中に位置付けようとする当時の文学史の動向を反映した出題がなされていたことを指摘した。さらに、試験問題におけるいわゆる十五年戦争の影響についても検討した。その結果、1937（昭和 12）年度の試験問題では当時大流行した戦意高揚のための「国民歌」である「愛国行進曲」の鑑賞を求める問題が出題されている事実や、1943（昭和 18）年度「国語学」の問題において、「大東亜共栄圏」域における国語（＝日本語）の位置付けを問う問題が出題されている事実から、樟蔭女子専門学校において、当時の国策に即応した教育が行われていたと推測されることについても指摘した。

### はじめに

2003 年度より樟蔭学園（以下、「学園」と記す）の許可を得て開始した筆者らによる学園所蔵資料の調査、研究も、本年で 6 年目を迎えた。この間、所蔵資料の中から『職員会誌』『樟蔭學報』といった資料を再発見したり、樟蔭高等女学校・樟蔭女子専門学校（以下、それぞれ「樟蔭高女」「樟蔭女専」と記す）で教鞭をとられた方々が執筆された著書や学園から発行された絵葉書などを収集することができた。そしてそれらをもとに、大正～昭和初期の樟蔭高女・女専の実態について考察してきたところである。<sup>1)</sup>

筆者らの研究は学園の歩んできた過程を分析し、事実を記録して行くこと、さらにはそこで明らかとなった内容を大学教育に還元して行くことを目的としている<sup>2)</sup>。それは、学園が所蔵する貴重な資料の保存と活用を図るという大きな目的の一環でもある。そしてこの目的を達成するには、まず、学園資料の整理が不可欠となることは言うまでもない。

2007 年度に行われた大学キャンパス内の教室利用見直し作業にもなって、学園資料はそれまで所蔵場所となっていた学園記念館 1 階の「学園資料展示室」からの移動を余儀なくされた。そ

の後、大学キャンパス内に学園資料保管のためのスペースが新たに設けられることになり、一応は安堵することができる状況となった。筆者らは、学園資料のその保管場所への移動について積極的に協力することを決め、現在はその準備作業をも進めている。またそれと並行して、大学より認められた本年度の特別研究助成費で、いわゆるブックスキャナー（ユニカミノルタ社製）を新たに導入し、学園資料のデジタル化も進めている。このブックスキャナーの導入によって、これまでのデジタルカメラを使用していた時に比して、かなり速いスピードで学園資料のデジタル化をはかることができるようになった。本稿では、このブックスキャナーを利用して第一番目にデジタル化した資料、『検定ニ関スル試験問題集』について若干の考察をめぐらせてみたい。

## I 『検定ニ関スル試験問題集』の紹介

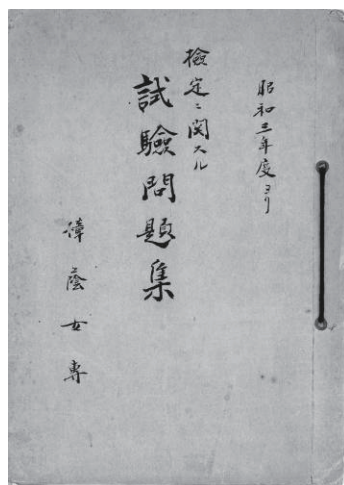
学園所蔵資料の中に、『検定ニ関スル試験問題集』（以下、『試験問題集』と記す）と題する厚紙の表紙を付けられた一冊の綴りがある。この冊子は、1929（昭和4）年、樟蔭女専に認められた中等教員免許無試験検定取り扱いに基づいて、当年から1949（昭和24）年まで、毎年文部省に中等教員免許を申請するに際し、添付書類として提出した試験問題の控えを綴ったものである。

佐々木啓子氏の研究によれば、中等教員免許の無試験検定の取り扱いは、1920（大正9）年以降、量的に増大しつつあった女子専門学校女子専門学校の存立において極めて重要な特典となっており、その取り扱い許可が認められなければ、他の女子専門学校との競争において極めて不利となったことが明らかにされている<sup>3)</sup>。樟蔭女専では、1928（昭和3）年6月にその取り扱い申請を行い、翌年5月、卒業生に対して、国文科は国語、家政科は家事、技芸科は裁縫の中等教員免許の無試験による認定の許可を得た。その結果、樟蔭女専の第一回卒業生から中等教員免許の無試験検定認定を受けることが出来たのである<sup>4)</sup>。

在学生に対して行われる試験が、その学校で行われた教育の効果を確認する側面を有していることは言うまでもない。中等教員免許に直結する資格認定のための試験であっても、それは同様に当てはまるはずである。とするならば、学園に遺る『試験問題集』に集められたそれぞれの問題は、その当時、樟蔭女専で行われていた教育内容を如実に反映していると言えよう。

そこで、『試験問題集』に載せられている国文科関係の各科目の試験問題のうち、1928年度から1945（昭和20）年度までのものを一覧として示す（後掲「表 検定試験問題（国文科）一覧」参照<sup>5)</sup>）。

樟蔭女専は、第二次世界大戦後の学制改革により1949年に大阪樟蔭女子大学へと改変されるまで続いた。しかも、『試験問題集』にも1949年までに実施された問題が集められている。にもかかわらず、本稿の分析を1945年度までの問題に限定するのは、まず第一に、『試験問題集』だけからでは、1946（昭和21）年度以後の問題が、何科の学生を対象に実施された試験問題であるか



『検定ニ関スル試験問題集』表紙

を、現段階においては特定することができないことによる。また、樟蔭女専では、1944（昭和19）年に改組が実施されており、それまでの家政科が保健科と育児科に分けられ、技芸科も被服科へと名称が変更されるとともに、新たに物理化学科（1947（昭和22）年廃止）が設けられた<sup>6)</sup>。そのため、1926（大正15）年に開校した樟蔭女専の当初の学科構成の最後となる1943（昭和18）年の入学生が卒業年次を迎えた1945年度をひとつの区切りとすることが適当ではないか、と考えたことが第二の理由である。ただ、1945年度を区切りとしたことで、敗戦を画期とした樟蔭女専の教育内容の変化を窺うことが困難となるが、この点については、他の資料も含めて今後検討して行きたい。

なお、表に整理した国文科の事例と同様に、同期間の家政科並びに技芸科の試験問題についても一覧を作成した。それらについても今後なるだけ早い段階での公表を模索したいと思う。

## II 国文科試験問題に関する若干の考察

### （1）求められた知識量

表では、1936（昭和11）年度と1939（昭和14）年度の試験問題が欠けている。これは、それぞれ1934（昭和9）年と1937（昭和12）年とに国文科への入学生がおらず、該当年度に卒業する学生が存在しなかったことによる。

さて、国文科の試験問題については、家政科や技芸科と共通する「倫理」「法制（学）」といった科目や、現在で言えば「教科教育法」「教育実習」に該当するであろう「教育」といった科目を除くと、「国語」「文学史」「文学概論」「言語学（国語学）」「漢文」「西洋史もしくは東洋史」といった科目を中心に構成されている。国文科でありながら「日本史」ではなく「西洋史もしくは東洋史」が必ず課されているのは、樟蔭女専では当時、日本が三年生ではなく一年生に担当されていたという<sup>7)</sup>、カリキュラムの関係によるものと推測される。この点からすると、文部省に提出された試験問題は、教員免許という資格獲得のための試験であるとともに、樟蔭女専第三学年における最終試験として、言うならば「卒業試験」として実施された試験問題であったことが再確認されるのである。

国語科の教員免許取得のための試験であることからすれば当然であるが、とりわけ「国語」と「漢文」の試験科目が多いことが一見して判る。「国語」に関して言えば、解釈、評釈、鑑賞を求める設問がほとんどである。そして、今回は紙数の都合で個別の問題文は省略せざるを得なかったが、表中に散見される『万葉集』に象徴される如く、そこで扱われているのは江戸時代以前の文学作品、我々が言うところの古典文学作品ばかりである。一方、「漢文」については、中国の古典に、句読点や返り点、送り仮名を付した上で解釈を求める設問がほとんどである。両者に共通するのは、対象となる日本・中国の古典の正確な解釈を求める姿勢であろう。ここには、第二次世界大戦前の大学の入試国語の一面として指摘されている「語彙や文法に関する知識を身につけて外国語の和訳と同じように古文を現代文に解釈したり、文学史の重要事項を暗記したりすることを国語の能力と考える」<sup>8)</sup> 考え方に通底するものを確認することができよう。石原千秋氏は、戦前の大学・高等学校入試国語に関して、「受験勉強はコンテクストをできる限り豊富に仕

入れることに費やされるだろう。コンテクストと言えは聞こえはいいが、要するに知識である」と述べている<sup>9)</sup>。当時の入試国語の場合がそうであったように、中等学校国語教員資格獲得のため、国文科では豊富な知識を身につけることが求められていたのである。こうした知識量の多さを量るといった傾向は、「国語」の語釈を求める設問や、「漢文」の孔子や老子、孟子らの思想についての説明を求める設問、そして「文学史」「文学概論」など他の科目における論述問題についても当てはまる。試験に合格するに足る十二分な知識を身につけるため、学生はたいへんな準備勉強を必要としたことであろう<sup>10)</sup>。

## (2) 近代文学の文学史上への位置付け

「文学史」の試験問題は、1945年度を除き、2～3の論述形式の問題が出題されている。それらを通覧していて気がつくことが一つある。それは、1931(昭和6)年度を境にして、出題傾向が大きく変化することである。1931年度の問題に「明治期の観念小説について概説せよ」という問題が出題されるまでは、「文学史」は全て前近代の文学に関する出題であった。ところが、1932(昭和7)年度以降の「文学史」は、全て明治期以降の文学に関して出題されている。試験問題については、当然出題者の専門分野や興味関心、言い換えるならば個性が反映されると考えられるが、担当者を見ると1929年度から1935(昭和10)年度までは徳山健三氏が担当している。したがって、1931・32年度頃の変化は出題者の交代によるものではない。さらに、1938(昭和13)年度に武田宗俊氏へ、1940年(昭和15)年度には、後に大阪樟蔭女子大学の初代学長をも務められた細川馨氏へと「文学史」の担当者が交代しても、近代文学について出題するという出題傾向は変わっていない。とするならば、樟蔭女専三年生の「文学史」では、1931年頃を境として、近代文学について教授することを主とするという方針が採用されたことを確認することができよう。

学園に遺された1928年度の樟蔭女専国文科『教授要目』によれば、「文学史」の授業は、二年生に2時間、三年生に3時間が配当されている<sup>11)</sup>。したがって、二年生の段階で前近代の文学史について講義していることも考えられることから、近代文学のみを教授していたとは思われない。しかし、配当時間数から見ると「文学史」においては、近代文学重視の方針を見出すこともあながち誤りとは言えない。

石川巧氏は、東京帝国大学の入学試験における1929年度入学試験での文学史の出題が嚆矢となって、近代文学を国文学史の中に組み込む見方が定着させられていったと指摘している<sup>12)</sup>。樟蔭女専における「文学史」の近代文学重視の方針は、こうした国語入試問題の出題傾向と認識を同じくするものと言えるのではないだろうか。この時期の、明治期以降の文学を文学史の中に組み込んで行こうとする文学史の傾向が、樟蔭女専における「文学史」教育にも影響していたと考えられよう。

## (3) 戦争と試験問題

本稿において試験問題を紹介した期間は、ちょうど十五年戦争の時期に重なっている。そこで

次に、戦争と試験問題との関係についても見ておきたい。

一見して判るのは、1944年度の試験科目数が4科目と極端に少ないことである。1944年度の試験が実際に行われたのは、1945年の2月から3月初頭のことと推測されるので、戦争の深刻化が影響していることは間違いない。1945年度の「教育（教育実習）」の問題において、「全科（国文・家政・技芸科）ニ亙リテ勤労働員ニヨリ各種軍事工場ニ奉仕センニヨリ只僅ニ一ヶ月二回ノ休暇日ヲ夫々召集シテ出校セシメ一部ニ授業ヲナシ他ニ教授実習ヲナサシメタルニヨリ実習ノ回数ハ極メテ少ナカリシ、（以下略）」とわざわざ説明されているように、この時期、学生は勤労働員に召集されており<sup>13)</sup>、最低限の試験を実施することしかできなかったものと推定されよう。

問題の出題傾向について見ると、国語という科目自体の性格からか、国語科に直結するような「国語」や「漢文」、あるいは「文学概論」「文学史」などの科目においては、大きな変化を見出すことは難しい。基本は、前述したように、対象となる文学作品の解釈やそれらに関する知識を問う問題である。とはいうものの、いくらかは戦争を反映した出題と見なすことができる問題も散見する。

例えば、1937年度「文学概論」の第二問は「『愛国行進曲』ヲ鑑賞スベシ」という問題であった。よく知られているように、「愛国行進曲」は、1937年8月に示された「国民精神総動員運動」の方針に基づき、政府・軍部が選定した「国民歌」である。同年12月にレコード会社各社から発売され、瀬戸口藤吉の作曲による軽快なメロディーもあって100万枚を超す売り上げを記録した<sup>14)</sup>。今、参考としてその歌詞を掲げよう。

- 一 見よ東海の空あけて、旭日高く輝けば、天地の正気澁刺と、希望は躍る大八洲、  
おお晴朗の朝雲に、聳ゆる富士の姿こそ、金甌無欠揺るぎなき、わが日本の誇りなれ
- 二 起て一系の大君を、光と永久に戴きて、臣民われら皆共に、御稜威に副わん大使命、  
往け八紘を宇となし、四海の人を導きて、正しき平和うち建てん、理想は花と咲き薫る
- 三 いま幾度かわが上に、試練の嵐哮るとも、断固と守れその正義、進まん道は一つのみ、  
ああ悠遠の神代より、轟く歩調うけつぎて、大行進の行く彼方、皇国つねに栄えあれ

歌詞は公募の中から選ばれたが、審査員によって補作され、元の歌詞はほとんど変えられた。その審査員七名の中には、佐佐木信綱・北原白秋・島崎藤村ら近代文学史にもその名を残す文学者たちが含まれている。そうした著名な文学者たちの手は入っているとは言え、その歌詞には、「八紘一字」のスローガンが織り込まれ、国威高揚的なもの以外の何物でもない。

樟蔭女専では、1938年2月11日の「紀元節」に際し、「愛国行進歌」（おそらくは「愛国行進曲」）を合唱していることが確認される。また、樟蔭高女は、同じ日に中之島の中央公会堂で開催された大阪府下女子中等学校紀元節奉祝賀音楽会に出演しているが、その前日、「愛国行進曲」の練習をしている<sup>15)</sup>。樟蔭女専の「文学概論」の試験における「愛国行進曲」鑑賞の出題は、こうした動向と軌を一にするものであろう。先に指摘したように、試験問題は、後日ではあるが文部省に提出された。こうした国策を促進する方針は、文部省側から歓迎されたに違いない。試験内容からも、当時の社会情勢と深く関連し、大勢に即した教育を展開していた樟蔭女専の教育の一端を垣間見ることができるのである<sup>16)</sup>。

日中戦争の勃発を契機に、1937年という年を境として学園の状況が大きく変化していたことは、これまでも筆者が指摘してきたところである<sup>17)</sup>。この「愛国行進曲」の鑑賞を求める問題が出題されたのが1937年度であった事実は、この指摘をさらに裏付けるものであろう。国文科以外の事例ではあるが、家政科「家事経済」の第三問に「現時ノ如キ非常時局ニ際シ主婦ハ家事経済上如何ナル態度方策ヲ以テ之ニ臨ムベキヤ」という問題が出題されたのも、1937年度のことである<sup>18)</sup>。「非常時局」という用語が象徴的である。1937年という年は、戦争が教育内容に及ぼした影響を考える上で、やはり大きな画期であることは間違いのないであろう。なお、当時の“重大な意味を持つ戦争状況下にある”という意味を含んだ「時局」という用語は、この後、「一、時局柄洗濯用剤ノ不足セル今日何ヲ以テ之ニ代用スベキカ、各繊維ニツキテ適当ナルモノ数種ヲ挙ゲ其ノ理由及使用方法ヲ記セ」（1941（昭和16）年度家政科「洗染」）、「三、高等女学校の生徒に現下の時局に鑑み衣生活に対する指導をなさんとす、その要項を列举せよ」（1943年度技芸科「和裁」）といった形で出題に使用されている<sup>19)</sup>。

国文科の試験問題に戻ろう。1941年度「国語学」の第一問に、「世界ノ言語ニ於ケル日本語ノ地位ヲ略述セヨ」とあるのが目を引く。さらに同じ「国語学」の1943年度の第一問は、「大東亜共栄圏域に於ける諸言語を略述し、それら諸言語に於ける国語の地位を論定せよ」という問題である。「国語学」の担当者は、1934年度に新町徳之氏へ交代して以来、一貫して新町氏が担当している。外来語の意義（1934年度）や古代語と近代語の相違（1935・1942（昭和17）年度）、あるいは、母音について問うたり（1937・1942年度）、本居宣長や新井白石、東條義門らの国語研究などについて問う（1937・1940・1941・1942年度）、新町氏の出題傾向と前記の問題とは明らかに異質である。

とするならば、1943年度第一問のような出題がなされた背景には、1943年5月の「大東亜政略指導大綱」によって、太平洋地域における日本占領地の日本領への編入が決定され、同年11月には大東亜会議が開催されたといった状況を考慮しなければならないであろう。こうした日本によるアジア、太平洋地域への侵略戦争の展開と歩調を合わせるような形で、「大東亜共栄圏」域における国語（＝日本語）の位置づけが求められたと考えられるのである。どのような解答を用意すれば良い成績を得ることができたのかは推測するしかないが、おそらくは国語（＝日本語）の“優越性”を主張することが必要とされたのではないだろうか<sup>20)</sup>。

## むすびにかえて

以上、『試験問題集』のうち国文科関係の問題を概観し、注目すべき点を指摘した。しかしながら、何分筆者は、日本文学や日本語を専門とする者ではないため、偏った分析となったり、見落としも多く、他に論じるべき点が多々存在するであろう。特に、「国語」や「漢文」で出題された問題文の出典を踏まえて論じなければ、当時の樟蔭女専国文科で行われていた教育内容の実際にはまだ分析の手を入れたことにはならないことは十分に承知しており、それは今後の課題としたい。

また、今回は紙数の都合から国文科の試験問題のみを紹介するにとどまったが、既に完成して

いる家政科・技芸科の試験問題についても今後なるべく早く公表したいと思う。国文・家政・技芸の三学科が樟蔭女専の中核をなす学科であり、そこで実施された試験問題を全て検討しなければ、『試験問題集』を分析したことにはならないであろう。さらに、それら三学科に加えて、前述の保健科・育児科、被服科、物理化学科や、1931年に設置され1943年に廃止された家庭科、戦後、1948（昭和23）年になって設置された英文科についても、当然検討の対象としなければ、樟蔭女専で行われた教育の全体像を考えたことにならないことも言うまでもない。今後は、学園に遺された資料の分析をさらに進め、樟蔭女専をはじめとする学園各校の実態についての検討を深めて行きたい。

【付記】本稿は、2003～2008（平成15～20）年度大阪樟蔭女子大学特別研究助成費による成果の一部である。

## 注

- 1) 拙稿「『職員會誌』から見た昭和初期の樟蔭女子専門学校」（『大阪樟蔭女子大学論集』42号、2005年）・「『樟蔭學報』に見る昭和戦前期の樟蔭学園」（同43号、2006年）・「新収集資料に見る大正～昭和初期の樟蔭学園」（同44号、2007年）・「昭和12年の樟蔭学園」（同45号、2008年）。以下、『大阪樟蔭女子大学論集』掲載の拙稿については、それぞれの発表年次を用いて表記する。
- 2) 筆者は、2007年度より教養教育科目として新たに設置された「樟蔭の窓」と題する自校教育科目の担当者の一人として、これまでに明らかとなってきた内容を講義に活用している。
- 3) 佐々木啓子『戦前期女子高等教育の量的拡大過程』（東京大学出版会、2002年）126～128ページ参照。
- 4) 樟蔭女専が中等教員免許の無試験検定取り扱い認可を獲得するに至る経緯については、拙稿2005を参照されたい。
- 5) なお、1928年度の国文科試験問題については、本稿に先立ち、拙稿「昭和初期の樟蔭女子専門学校国文科—昭和三年の『教授要目』と『検定ニ関スル試験問題集』から—」（『樟蔭国文学』45号、2008年）の中でも紹介している。
- 6) 樟蔭女専の学科構成の変遷については、毎年発行されている『樟蔭学園要覧』（樟蔭学園）掲載の「樟蔭学園 各校・学科の変遷」図を参照されたい。
- 7) 学園所蔵の『昭和三年度 教授要目 国文科』の記載による。
- 8) 石川巧『「国語」入試の近現代史』（講談社、2008年）61ページ。
- 9) 石原千秋『秘伝 大学受験の国語力』（新潮社、2007年）66ページ。
- 10) 樟蔭女専第一回卒業生でもあった久保（旧姓壇辻）重氏（元本学教授）が、「卒業直前には文部省の学力テストがありました。クラスが結束して準備勉強し、校長先生に御満足いただくという一心で、努力を重ねました。その甲斐あってか、第一回卒業生から中等学校の教員無試験検定が認可になったのも、なつかしい思い出の一つです」（「伊賀駒吉郎先生—女専時代の思い出」〈『国文学会報』31号、1987年〉、後に、久保先生を偲ぶ会編『紫翠』（久保先生を偲ぶ会、1996年）所収）と回想されているのも、準備のための勉強がたいへんであったことを裏付けていよう。
- 11) 『昭和三年度 教授要目 国文科』（学園所蔵）。なお、そのうち、各学年における授業科目の配当時

間については、前掲注 5) 拙稿において紹介した。

- 12) 石川巧前掲注 8) 書 63 ページ。
- 13) 樟蔭女専生の軍事工場への勤労働員の様子については、卒業生で当時樟蔭女専に在学されていた田辺聖子氏の『欲しがりません勝つまでは』（ポプラ社、1977 年）などの著書にも紹介されている。
- 14) 「愛国行進曲」については、（昭和 二万日の全記録 第 4 巻）『日中戦争への道 昭和 10 年▶12 年』（講談社、1989 年）289 ページなど参照。
- 15) 1937 年 1 月から 1938 年 2 月までの学園各校の動向については、拙稿 2008 掲載の第 2 表・第 3 表を参照されたい。
- 16) この点に関連しては、当時の樟蔭高等女学校における体育教育について検討した拙稿 2006 も参照されたい。
- 17) 拙稿 2006・2008 参照。
- 18) 『試験問題集』家政科昭和 12 年度分「家事経済」問題。
- 19) 問題文は、いずれも『試験問題集』該当年度該当科目による。
- 20) 1939 年度家政科「生物学」第一問においても「日本人種ノ世界ニ優秀ニシテ卓越セル所以ハ二千六百年間ノ同一人種ノ純粋繁殖ノ結果ニヨルコトヲ説明セヨ」といったように、歪んだ“日本や日本人の優越性”を問う出題がなされている。これもまた、侵略戦争を遂行していた当時の日本の状況を如実に反映する事実と言えよう。



表 検定試験問題（国文科）一覧

年度	国文科				時間 (分)
	科目名	担当者	問題		
昭和3年度	倫理	伊賀駒吉郎	一、ペーコントでかると 二、自然主義ハ事物ノ量差ノミヲ認メズトハ如何 三、資本主義経済トハ如何		80
	法制学	中西保則	2題中1題選択	一、帝国議會ヲ説明スベシ 二、國務大臣及枢密顧問ノ憲法上ノ職能ヲ述ベ帝國議會トノ關係ニ論ジスベシ	80
	教育学	志野幸次郎	実地授業 3年11月～4年2月	教授按作成 教生トナリ教授スベキ生徒ハ樟蔭高等女学校生徒ヲ各学年ニ亘リテ配当ス	
	国語	山口助治	一、評釈 二、各短歌ノ評釈		80
	国語	上原延蔵	解釈	一～三	80
	文学史	青木幹一	一、桂園派ノ歌風及歌人ニ付テ知ル所ヲ記セ 二、滑稽本ノ代表的作家ニ付テ記セ		80
	言語学	青木幹一	一、我国ニ例ヲ取り言語ニ対スル文字ノ適応性ヲ説明セヨ 二、事項ノ説明	イ、内の言語 ロ、文字ノ萌芽 ハ、諺文	80
	国語		卒業論文	題目(16)省略	
	漢文	山口助治	解釈		80
	漢文	田中勝之丞	解釈	一～三	80
	漢文	田中勝之丞	解釈	一～五	80
	西洋史	佐々木恒清	一、アイルランドの耕地に就て述べよ 二、ビスマークの鉄血政策の効果に就て述べよ 三、腐敗選挙区とは何ぞや		80
	美術史	佐々木恒清	一、鎌倉時代の彫刻の特色 二、狩野山楽、相阿弥に就て記せ		80
	昭和4年度	倫理	伊賀駒吉郎	一、るねさんずノ根本精神ヲ述ベヨ 二、自然主義ニ付テ論セヨ	
法制		中西保則	3題中1題選択	一、帝国議會ヲ論ズ 二、國務大臣枢密顧問トハ何ソ及之等ト帝國議會トノ關係ヲ説明スベシ 三、衆議院ノ解散及其ノ議員ノ選挙ノ意義如何及選挙ガ校正ニ行ハルル必要アル所以ヲ説明スベシ	80
美学		伊賀駒吉郎	一、美的快樂ノ特性ヲ記セ 二、壮美ト可憐トノ成立ニツキ述ベヨ		80
教育		上原延蔵	改定女子新国文巻二第三十二課「女帝ビクトリヤ」ノ教案ヲ作レ		80
国文		新町徳之	一、読方 二、解釈(漢字ニハ仮名ヲ附セヨ) 三、解釈		80
国語		山口助治	一、評釈 二、評釈 三、万葉集巻11、12、13、14、15、16の巻々について簡明に解釈を記せ		80
国語		上原延蔵	一、評釈 二、評釈		80
文学史		徳山健造	一、お伽草子について概説せよ 二、談林派の俳諧に付て概説すべし 三、次の項目につき知れる所を記せ		80
言語学		青木幹一	一、文学変遷ノ傾向ニ就テ概説セヨ 二、我国上代ニ於ケル漢字ノ假用法ヲ例ニトリテ文字ノ適応性ヲ説明セヨ		80
漢文		山口助治	一、解義 二、語句ノ解 三、文字ノ字源ヲ説明セヨ 四、部首ノ読方ヲ記せ	イ、草庵集、ロ、金平淨瑠璃、ハ、小澤蘆庵 气ベ袋巾ヨ、以上読み方 尸弋イウ交、以上音	80
歴史		加藤鐵三郎	4題中3題選定シ答フベシ 一、王安石ノ新法 二、唐ノ文字ノ革新 三、明太祖ノ政策 四、清初三藩ノ乱		80
漢文		田中勝之丞	一、解釈 二、解釈 三、解釈 四、解釈		80

昭和5年度	国語	上原延蔵	一、解釈 二、評釈		80	
	国語	田井嘉藤次	一、釈義 二、語義を釈せ	「しらす」「うしはく」「百取の机代の物」「塩盈珠、塩乾珠」	80	
	国語	山口助治	評釈	イ～ハ	80	
	文学史	徳山健三	一、近世の文学史的時代区画とその状勢並 二、左の人物事項に関して知れる所を記せ	ニ文化の中心地の推移等について概説せよ 一、太田蜀山人 二、八文字舎本	80	
	文学概論	新町徳之	一、左ノ問題ノ一ニ答ヘヨ	イ、文芸批判ノ標準ヲ述ベ左ノ作品ノ一ヲ選ビテ之ヲ 批判セヨ たけくらべ、破戒、五重塔、草枕、その妹 ロ、文学概論ノ体系ハ如何ニ之ヲ組織スルヲ可トスル カ ハ、小説ト戯曲トヲ対照セシ	80	
			二、左ノ問題ノ二ツニ答ヘヨ	イ、舞台効果 ロ、叙景詩ノ特色 ハ、曖昧説 二、純粋感情 ホ、勸懲主義 ヘ、思想劇		
	言語学	青木幹一	一、標準語ノ意義 二、国語母音及子音ノ特質		80	
	教育	上原延蔵	左ノ教案ヲ作レ	教材：改新女子新国文巻七 をさな児（小林一茶） 学年：高等女学校4年級 時間：1時間	120	
	西洋史	加藤鐵三郎	4題中3題選択	一、啓蒙思想ノ意義	80	
				二、英国ニ於ケル産業革命ノ原因		
				三、封建制度崩壊ノ原因		
				四、左ニツキテ記セ イ、神聖同盟 ロ、トル ウェール		
	漢文	山口助治	釈読と解義		80	
	漢文	田中勝之丞	(解釈力)	一～五	80	
	美学	伊賀駒吉郎	一、芸術ハ表現ナリト云フ説ヲ批評セヨ 二、美ニ対スル種々ノ態度ヲ述ベヨ		80	
	倫理	伊賀駒吉郎	一、るねさんす思潮ノ特色 二、自然主義ノ根本思想		80	
	法制学	中西保則	左ノ問題中1題選択	一、女性ヨリ親タル帝国議會ヲ論ズ 二、我婚姻ノ理想ヲ論ズ	80	
	昭和6年度	倫理科	伊賀駒吉郎	右4題ノ中2題ヲ選ビテ答ヘヨ	一、クラシックとローマンチックとの比較 二、写実主義とは如何 三、自然主義の人生観 四、共産主義の主張を批評せよ	80
		法制科	中西保則	右ノ内1題任意選択シテ答フベシ	一、帝国議會ヲ論ス 二、帝国臣民ノ權利義務如何 三、我國統治設備ノ大要ヲ述フベシ	80
国文		上原延蔵	一、評釈 二、解釈	源氏物語・明石 源氏物語・橋姫	80	
国文		田井嘉藤次	一、大國主義國ノ段ニ就キ思想上ノ感ヲ述ベヨ 二、左ノ文ヲ解釈セヨ 三、左ノ文ヲ解釈セヨ	「塩盈珠を出して溺らし、塩乾珠を出して活し」	80	
国文		新町徳之	一、通釈 二、語釈	世間胸算用 釣御前、腹はれ、差粉、投節、虎落、大間の行燈、目 安つけられ、御蔵屋敷、幸木、節氣候	80	
国文		山口助治	解釈力	一～六 万葉集	80	
文学史		徳山健三	左の問題に関して概説せよ	一、浮世草子 二、紀海音 三、明治期の観念小説	80	
東洋史		加藤鐵三郎	一、明代の復古主義につきて記せ 二、ロシアの東方侵略につきて記せ(但尼布楚条約マデ)	イ、耶律楚材 ロ、スワラジ、スワンデ ハ、清朝の 租借問題	80	
			三、左につきて記せ			
漢文		山口助治	解釈力	一～三	80	
漢文		田中勝之丞	解釈力	一～四	80	
教育		上原延蔵	一、高等女学校第三学年ニ左ノ教材ヲ教フル 教案ヲ作レ	新選国文 巻五 空行く雁 異本曾我物語	80	
美学		伊賀駒吉郎	一、美感ノ性質ヲ論ゼヨ		80	
倫理	伊賀駒吉郎	一、自然主義ヨリ見タル真善美 二、ぎんど及資本主義經濟ニ付テ述ベヨ		80		
法制学	中西保則	一、帝国議會ヲ論ズ 二、婚姻ヲ論ズ		80		
教育	伊賀駒吉郎	3題中2題選択	一、教授ノ形式的目的ト實質的ノ目的トノ別 二、五段教授法ヲ説明セヨ 三、訓練上ヨリ見タル智行ノ関係ヲ論セヨ	80		

昭和7年度	教授法	上原延蔵	一、教授案ノ作製 二、実地授業 授業ナナスヘキ生徒ハ本校ノ姉妹校タル樟蔭高等女学校生徒ヲ宛ツ	
	国語	上原延蔵	一、解釈 二、解釈と批評	80
	国語	山口助治	一、(万葉集力)第十三・四・六ノ巻々について概説せよ 二、評釈	80
	文学史	徳山健三	一、幸田露伴ノ小説ノ傾向ヲ述ベヨ 二、明治中期ノ社会小説ニツキ概説セヨ	80
	国語学	徳山健三	一、国語ノ促音トハ如何ナル音現象ヲ言フカ 二、外来語ニツイテ概説セヨ	80
	文学概論	新町徳之	第一、左ノ問題ノツニ答ヘヨ 第二、左ノ問題ノニツニ答ヘヨ	80
	漢文	山口助治	一、次ノ語句ノ読方ト意義・解釈 二、釈読評釈	80
	漢文	田中勝之丞	(解釈力)	80
	西洋史	加藤鐵三郎	一、武士トナル修養及其生活 二、旧政治ニツキテ記セ 三、左ニツキテ記セ	80
	割烹	古澤クラ	一、反茹肉ノ料理法ヲ記セ 二、Jurnip Ball Sliced Parsley 料理法ヲ記セ 三、Carmel Onsterd 材料及分量ヲ記セ	80
	倫理	伊賀駒吉郎	一、人文主義トハ如何 二、浪漫派ト自然派トノ比較	80
	法制	中西保則	一、我婚姻制度ニ付所感ヲ述フベシ 二、帝国議會ノ性質ヲ説明スベシ	80
	教育	上原延蔵	教授案ヲ作成セヨ	80
	昭和8年度	教授法	上原延蔵	一、教授案ノ作成 二、実地授業
国語		上原延蔵	評釈	80
国語		山口助治	評釈	80
国語		新町徳之	解釈 漢字ニハ読ミ仮名ヲ附セヨ 語釈	80
国語		新町徳之	解釈	80
文学史		徳山健三	一、与謝野晶子ノ短歌に就いて概説せよ 二、明治中期ノ俳壇ノ状勢ヲ記セ	80
文学概論		新町徳之	一、悲劇ノ性質ヲ略述スベシ 二、鑑賞批評トハ何ゾ	80
国語学		徳山健三	一、音変化ノ諸現象ヲ挙ゲテ説明セヨ 二、定家仮名遣ニツイテ概説セヨ	80
漢文		山口助治	一、釈読解釈 二、釈読解釈 三、読方意義	80
漢文		宮崎義雄	通釈	80
歴史		加藤鐵三郎	一、宋ノ儒学にいきて記セ 二、宣統帝退位ノ始末 三、左につきて記セ	80
家事科		片野實之助	一、何故ニ収入ニ関シ危険分散主義ヲ実行セサルベカラザルヤ 二、家事経済学習者ノ立場ヨリ剰余金ニ適當ナル処分ニツキ略述スベシ 三、剰余金ノ預託ニ関シ銀行ノ選択法ニツキ注意スヘキ事項ヲ問フ	80
倫理		伊賀駒吉郎	一、自然主義者ノ真善美観 二、第十八世紀ノ思潮ノ特色	80
法制学		中西保則	一、婚姻ノ意義並ニ効力ヲ論ズ 二、帝国議會ノ性質並ニ権限ヲ論ズ	80
教育		上原延蔵	左ノ教案ヲ作成セヨ	80
国語		上原延蔵	一、評釈 二、解釈	80

昭和9年度

国語	新町徳之	一、解釈(漢字ニハ読方ヲ施セ) 二、読方	甲・乙 甲・乙	80
国語	新町徳之	一、左の五語を選びて解釈すべし 二、(解釈力)	三具足、七半の箴、釣御前、仕懸山伏、投節、所務分、目安、角前髪、御火焼、さい目論、削掛の神事、大間の守行燈、節季候、食酒、御家流	80
国語	山口助治	一、評釈 二、(万葉集力)第九巻の特色を記せ 三、(万葉集力)集中作者時代の不詳の巻々は何々か 四、(万葉集力)第十六巻について知れる所を記せ		80
文学概論	新町徳之	一、批評ト創作トノ関係ヲ略述スベシ 二、左問ノ内、ニツ選ビテ解答セヨ	一、詩歌ノ韻律 二、悲劇ノ形相 三、本居宣長「物のあはれ」説	80
国語学	新町徳之	一、波行(ハ、ヒ、フ、ヘ、ホ)音ノ性質ヲ略述スベシ 二、各項の略解	イ、外来語ノ意義 ロ、音韻ノ鎔化 ハ、男信 ニ、雅語音声考 ホ、国語学概説ノ参考書五種(著者ヲモ記セ)	80
文学史	徳山健三	右の内二題を選び認めること	一、河竹黙阿弥の明治期に於ける劇作に就て概説せよ 二、北村透谷とその詩について概説せよ 三、島崎藤村の詩集について概説せよ	80
漢文	山口助治	一、(釈読解釈力) 二、(釈読解釈力)		80
漢文	山口助治	一、(釈読解釈力) 二、(釈読解釈力) 三、(釈読解釈力)		80
漢文	山口助治	一、韓非子ノ諸説ノ要領ヲ記セ		80
歴史	加藤鐵三郎	一、啓蒙思想ノ意義 二、英国産業革命ノ起源 三、左ニツキテ記セ	イ、ゲーテ ロ、クールベール	80
家事経済	片野實之助	一、生産信用ノ歓迎スベク消費信用ノ歓迎スヘカラサル理由ヲ問フ 二、貯蓄ト国民経済トノ関係ヲ説明スベシ 三、基礎確實ニシテ利率高キモ有名ナラサル会社若クハ地方的ナ会社ノ社債券ノ如キハ一般家庭ノ投資法トシテハ之ヲ避クルヲ可スル理由ヲ問フ 四、社債券ノ所有者ト株主トノ対会社関係ニ於テ異ナルコトヲ略述スベシ		(80力)
倫理	伊賀駒吉郎	右2題ノ中1題ヲ選ビテ答ヘヨ	一、真、善、美ニ付テノ自然主義者ノ主張ヲ述ヘ併セテ之ヲ論評セヨ 二、クラシックトローマンチックノ比較	80
法制	中西保則	一、我民法上ノ婚姻制度ヲ批判スベシ 二、我憲法ニ於ケル帝国議會ノ地位ヲ論スベシ		80
国語	上原延蔵	一、評釈 二、解釈		80
国語	山口助治	一、(解釈力) 二、更級日記を読み終へて 三、(解釈力)		80
国語	新町徳之	一、通釈 二、語釈	イ〜ハ 桑年、弦めそ、十團子、板がへし、こま金	80
国語	武田宗俊	(解釈力)	一〜三	80
国語学	新町徳之	一、古代語ト近代語トノ相違ヲ概説スベシ 二、左ノ書目解題スベシ	イ、篆隸萬象名義 ロ、手爾派大概抄 ハ、古言梯 ニ、語学新書 ホ、雅言音声考 ヘ、山口の菜	80
文学史	徳山健三	右ノ中2題ヲ撰ビ概説セヨ	一、河竹黙阿弥ノ明治期ニ於ケル劇作ニ就イテ 二、高山樗牛ト明治中期ノ浪漫的思想ノ勃興トノ関係 三、明治中期ノ詩壇各派ノ概説	80

昭和10年度

昭和12年度	漢文	大江文城	二ツ撰ビ其読方ヲ仮名交文ニテ記セ、振仮名不用	一～三	80
	漢文	大江文城	四、漢字制作ノ四則ヲ説キ且ツ其ノ实例ヲ示セ		
	漢文	大江文城	一、左ノ中ノ一ヲ写シトリテ句読点送仮名ヲ施シ且ツ解釈セヨ	イ、ロ	80
	漢文	大江文城	二、左ノ中ノ一ヲ写シトリテ句読点送仮名ヲ施シ且ツ解釈セヨ	イ、ロ	
	漢文	大江文城	三、孔子ノ道徳觀ニツイテ述ベヨ		
	東洋史	加藤鐵三郎	一、清初二於ケル漢人統治策		80
	東洋史	加藤鐵三郎	二、露清間ニ於ケル三條約ニツキテ記セ		
	東洋史	加藤鐵三郎	三、唐代ニ於ケル美術工芸		
	倫理	伊賀駒吉郎	一、自然主義ト浪漫主義ノ比較		80
	倫理	伊賀駒吉郎	二、資本主義經濟ヨリ生ズル特殊現象		
	法制学	藤村東	一、枢密顧問ニ付説明スベシ		80
	法制学	藤村東	二、民法上ノ親族ノ種別ヲ説明スベシ		
	国語	上原延蔵	一、(解釈力)		80
	国語	上原延蔵	二、(解釈力)		
	国語	上原延蔵	三、国姓爺合戦と日本精神に就て述へよ		
	国語	山口助治	一、右漢字に仮名をつけ。簡単に説明。		80
	国語	山口助治	二、読み方と評釈		
	国語	山口助治	三、語句の解義	豊の楽、豊の明、おすひがね、くしろ、ひぢまき、しじまふ、ただむき、大君ろかも、たはる、やまがた、	
	国語	武田宗俊	一、「父帰る」海彦山彦「紙風船」三戯曲を比較評論せよ		80
	国語	武田宗俊	二、(解釈力)		
国語	山口助治	一、評釈		80	
国語	山口助治	二、評釈			
国語	山口助治	三、万葉集巻五以下各巻について知れる所を簡単に記せ			
日本史	加藤鐵三郎	一、英国ノ産業革命		80	
日本史	加藤鐵三郎	二、欧州ニ於ケル三帝協約ヨリ二国同盟ニ至ル外交ノ経路			
日本史	加藤鐵三郎	三、左ニツキテ記セ	イ、ルソー ロ、レーニン ハ、ズーデルマン		
文学史	武田宗俊	一、尾崎紅葉と幸田露伴の作風を述べ比較評論せよ		80	
文学史	武田宗俊	二、藤村の小説について			
文学史	武田宗俊	三、左につきて簡単に記せ	牧水、碧梧桐、長塚節、桐一葉、斎藤緑雨、福地桜痴		
文学概論	新町徳之	一、小説ノ本質		80	
文学概論	新町徳之	二、「愛国行進曲」ヲ鑑賞スベシ			
漢文	大江文城	一、左ノ文ヲ写取り句読点ヲツケ且ツ解釈セヨ		80	
漢文	大江文城	二、(一に同じ力)			
漢文	大江文城	三、(一に同じ力)			
漢文	大江文城	一ト二トハソノ一ヲ選ベ	一、左ノ文ヲ写取り句読点ヲツケ、且ツ解釈セヨ 二、同上	80	
漢文	大江文城	三、老子ノ道ト孔子ノ道トノ異同ヲトケ			
国語学	新町徳之	一、母音(ア、イ、ウ、エ、オ)の性質		80	
国語学	新町徳之	二、左問ノ一ツニ答ヘヨ	イ、東條義門ノ事跡 ロ、方言ノ地方的画期		
教育	上原延蔵	教授法	松下禪尼と最明寺入道(徒然草) 右教材の高等女学校三年生ニ一時間ニテ教フル教案ヲ作製セヨ	80	
倫理	伊賀駒吉郎	一、ルネサンス思潮		80	
倫理	伊賀駒吉郎	二、ベーコンとデカルト			
法制	藤村東	一、憲法上ノ臣民ノ自由権ヲ簡單ニ説明スベシ	但シ 六法全書ノ携帯ヲ許ス	80	
法制	藤村東	二、親等ヲ説明スベシ			
教育	上原延蔵	教授案作製	自13年11月至14年2月		
教育	上原延蔵	実地授業	教授スベキ生徒ハ各科ヨリ之ニ宛テ樟蔭高等女学校各学年生ヲ配当ス		
国語	上原延蔵	(解釈力)	一・二	80	
国語	新町徳之	一、(解釈力)		80	
国語	新町徳之	二、鑑賞	イ・ロ・ハ		
国語	山口助治	一、左ノ文ヲ仮名交リ文ニ書キ改メ解釈セヨ		80	
国語	山口助治	二、(同上力)			
国語	武田宗俊	芥川龍之介の或日の大石内蔵之助を評せよ		80	
文学史	武田宗俊	一、夏目漱石の文学に付て		80	
文学史	武田宗俊	二、菊池寛・芥川龍之介の文学を論ぜよ			
文学概論	新町徳之	一、写実小説ノ特色ヲ説明セヨ		80	
文学概論	新町徳之	二、鑑賞批評ニ就テ述ベヨ			
教育	上原延蔵	一、作文添削ノ方法ヲ述ベヨ		80	
教育	上原延蔵	二、をさなじ(一茶ノ作)ヲ教材トシテ教授ノ目的及ビ鑑賞セシムベキ点ヲ述ベヨ(高女三年ニ課ス)			

昭和15年度	漢文	大江文城	一、左ノ詩ニ返点送仮名ヲツケ且ツ其ノ大意ヲ記セ 二、左ノ返点送仮名ヲツケ解釈ヲ記セ 三、同上	80		
	漢文	大江文城	一、左ノ文ヲ写取り返点送仮名ヲツケ解釈ヲ記セ 二、左ノ文ヲ写取り返点送仮名ヲツケ解釈ヲ記セ 三、墨子ノ兼愛ト交別トノ意義	80		
	歴史	加藤鐵三郎	一、モゴル帝国ノ初期につきて記セ 二、清末革新運動より革命に至るまでの顛末 三、左につきて記セ	80		
	倫理	伊賀駒吉郎	一、クラシック、ローマンチック及ナチュラリズム、ノ性質ニ付テ記セ	80		
	法制	後藤庄治郎	一、衆議院ノ停会及解散ニ就テ述ベヨ 二、家督相続ト遺産相続トノ異ナル点ヲ列挙セヨ	80		
	国語	上原延蔵	解釈	一・二・三	80	
	国語	山口助治	評釈 二、万葉集巻五、巻九、巻十六について概説せよ	一	80	
	国語	小林文助	通釈	一・二	80	
	文学概論	新町徳之	一、文芸ト道徳トノ関係 二、左問ノ一ツヲ選ビテ答ヘヨ	イ、文学概論ノ体系 ロ、鑑賞批評	80	
	国語学	新町徳之	一、国語ノアクセントヲ略説セヨ 二、新井白石・本居宣長ノ国語研究上ノ事績ヲ略説スベシ		80	
	国語	細川馨	一、謡曲ト狂言トノ本質を比較せよ 二、解釈せよ		80	
	文学史	細川馨	一、明治文学に於ける正岡子規ノ立場に就いて略説せよ 二、樽牛は何故日蓮に帰依するに至りしか 三、露伴ノ作品ノ特質如何		80	
	西洋史	加藤鐵三郎	一、文芸復興ノ意義 二、三国同盟ト二国同盟ノ成立 三、國際連盟後に於ける國際協調主義につきて記セ		80	
	漢文	大江文城	一、左ノ文ノ句読点、返点、送仮名並ニ解 二、左ノ文ノ句読点、返点、送仮名並ニ解 三、孟荀性説ノ一斑		80	
	漢文	大江文城	一、左ノ文ニ句読点、返点、送仮名ヲツケ且ツ傍線ノ所ヲ解釈セヨ 二、左ノ文ニ句読点、返点、送仮名ヲツケ且ツ傍線ノ所ヲ解釈セヨ 三、孔老二家ノ思想ノ相違点		80	
	昭和16年度	倫理	伊賀駒吉郎	一、自然主義ニ付テ左ノ要項ヲ述ベヨ 二、自然主義ノ真、善、美ニ付テノ觀方及ビ之ニ對スル批評	一、自然主義ト浪漫主義トノ比較 二、自然主義ノ真、善、美ニ付テノ觀方及ビ之ニ對スル批評	50
		国語学	新町徳之	一、世界ノ言語ニ於ケル日本語ノ地位ヲ略説セヨ 二、左問ノ一ツニ答ヘヨ	イ、近古(鎌倉室町時代語)ノ特質 ロ、本居宣長ノ国語研究上ノ事績	50
		文学概論	新町徳之	一、音位律トハ何ゾ 二、悲劇ヲ概説セヨ		50
		文学史	細川馨	一、尾崎紅葉ノ写実に就いて述ベヨ 二、幸田露伴ノ代表的作品一、二を選び其ノ作風ノ特質に就いて説明せよ		50
		国語	上原延蔵	解釈	一・二	50
国語		小林文助	一、左ノ文を通釈し且傍線ノ語を精解すべし 二、倭建命につきて知れることどもを記セ		50	
国語		細川馨	一、全文解釈せよ 二、日本永代蔵に描かれたる世界に就いて説明せよ		50	
漢文		大江文城	一、左ノ文ノ解 二、左ノ文ニ返点送仮名ヲツケヨ		50	
漢文		大江文城	一、左ノ文ニ返点送仮名ヲツケ且解釈セヨ 二、孔老二家ノ「道」ニ對スル見解ノ相異		50	
東洋史		加藤鐵三郎	一、清談につきて記セ 二、抜都ノ西征につきて記セ		50	
法制		後藤庄治郎	一、我民法ニ於ケル無能力者ヲ説明スベシ 二、内縁關係ノ存立スル事情及之ニ對スル心構ヘ如何		50	
国語		山口助治	一、謡曲概説 二、左ノ詞章を評釈せよ		50	
倫理		伊賀駒吉郎	一、スティックノ倫理説 二、クラシックニ付テ		80	
文学概論		新町徳之	一、文学ノ本質 二、一作品ニ即シテ文芸批評ノ種々相ヲ略説スベシ		80	

昭和17年度	国語学	新町徳之	一、国語母音(ア・イ・ウ・エ・オ)ノ音価ヲ説明スベシ 二、イ、古代語ト近代語トノ比較的記述 三、ロ、東條義門ノ国語研究上ノ業績	80	
	文学史	細川馨	一、新体詩の発生に就いて略述せよ 二、短歌俳句の革新運動に於ける正岡子規の立場に就いて略述せよ 三、小説神髓の文学史的価値に就いて述べよ	80	
	国語	上原延蔵	解釈	一・二	80
	西洋史	加藤鐵三郎	一、文芸復興の意義 二、左につきて記せ	イ、三国同盟 ロ、ワシントン会議 ハ、ヘレニズム	80
	漢文	大江文城	一、返点送仮名並二解 二、返点送仮名並二解		80
	漢文	大江文城	一、返点送仮名並二解 二、返点送仮名並二解		80
	国語	細川馨	次の全文を解釈せよ	イ・ロ・ハ	80
	国語	山口助治	一、万葉集解題を簡明に記述せよ 二、次の歌の評釈を記せ、傍線の個所を文法上より説明せよ		80
	国語	小林文助	一、左の文中傍線の所に読仮名を附し、語釈を施し、且全文を通釈すべし 二、天孫降臨に先ち遣されし神々の名を順次に記せ		80
	法制	後藤庄治郎	一、我国の法制上より見たる立法、司法及行政の意義如何 二、人身権を説明すべし		80
昭和18年度	倫理	伊賀駒吉郎	一、自然主義ノ眞、善、美ニツイテノ見方ヲ述べ其ノ欠点ヲ指摘評論セヨ	80	
	法制	中森作太郎	一、我が立憲政治の大意を述べよ 二、左の各項に就いて述べよ	イ、国体の淵源と憲法第一条 ロ、司法権の独立 ハ、緊急勅令	80
	倫理	伊賀駒吉郎	一、自然主義ノ要領ヲ述べ且浪漫主義ト比較セヨ		80
	国語	上原延蔵	一、解釈 二、評釈		80
	国語	細川馨	一、全文を解釈せよ 二、謡曲に現れたる女性に就いて略述せよ		80
	国語	小林文助	一、左の文に仮名をつけ通釈すべし 二、左の歌を訳せよ 三、左の語に仮名を附し解釈すべし	神風の伊勢の海の大石に這ひもとろふ細蝶のい這ひもとほり撃ちてしまむ 1、痛矢串 2、天の石位 3、思金神 4、高御産巢日神	80
	国語・文学史	細川馨	一、例を經国美談にとり政治小説の本質を述べよ 二、次の事項を説明せよ	イ、新体詩抄 ロ、落合直文 ハ、正岡子規 ニ、小説神髓	80
	国語・文学概論	新町徳之	一、文学の発生を論述せよ 二、創作と批評との関係		80
	国語・国語学	新町徳之	一、大東亜共栄圏域に於ける諸言語を略述し、それら諸言語に於ける国語の地位を論定せよ 二、本居宣長の国語法研究の価値		80
	国語	山口助治	一、左ノ長歌ノ評釈 二、万葉集研究書五種を選び其の著者と書名とを記せ		80
	漢文	大江文城	一、左ノ文ニ句読点返点送仮名ヲ附ケ且ツ解釈ヲ記セ 二、左ノ文ニ句読点返点送仮名ヲ附ケ且ツ解釈ヲ記セ		80
	漢文	大江文城	一、漢字ノ構成四法ヲキ且ツ之ガ例各五字ヲ示セ 二、左ノ詩ニ返点送仮名ヲツケ且ツ何ヲウタヒタルモノナルカラ述ベヨ 三、左ノ文ニ返点送仮名ヲツケ且ツ略解セヨ		80
	歴史	加藤鐵三郎	一、三国同盟の由来 二、文芸復興の意義 三、ローマ滅亡期に於ける軍事的事情		80
	倫理	伊賀駒吉郎	一、日本国民性ノ特色ヲ記セ		80
	国語	上原延蔵	一、〔解釈力〕 二、謡曲「高砂」の主題に就いて説明せよ		80
	国語	小林文助	左の文に仮名をつけ且解釈せよ		80
	漢文	大江文城	一、左ノ文ニ返点送仮名ヲツケ且解釈セヨ 二、左ノ文ニ返点送仮名ヲツケ且解釈セヨ		80
倫理	伊賀駒吉郎	一、ヘレニズムトヒブレイズム 二、産業革命ノ起リト其ノ結果		60	

昭和 20 年度	国語	上原延蔵	一、〔解釈力〕 二、万葉集の代表的歌人二名をあげて比較しつづ、その特異性を述べよ 三、次の枕言葉を説明せよ	60
			イ、つがの木の 口、奥の藻の ハ、あをによし	
	漢文	大江文城	一、荀子ノ性悪篇中ノ「人之性悪明矣、其善者偽也」トノ語句ヲ解セ 二、老子ノ所謂「善者吾善之不善者吾亦善之徳善」ノ意味ヲ解ケ	60
	国語	小林文助	一、左の文に仮名ヲ附ケ傍線の句を精釈し全文を解釈すべし 二、天神七代、地神五代の御神名を書け	60
	文学史	細川馨	一、例ヲ経国美談ニトリ政治小説ノ本質を略述セヨ	60
	歴史	山本荒吉	一、文芸復興の意義	(60力)
	文学 概論	新町徳之	一、創作と批評との関係	60
	国語学	細川馨	一、本居宣長ノ国語法研究の価値	60
	法制	中森作太郎	一、司法権ノ独立 二、緊急勅令	60
	教育 (教授 実習)	細川馨	一、全科(国文・家政・技芸科)ニ亘リテ勤労働員ニヨリ各種軍事工場ニ奉仕センニヨリ只僅ニ一ヶ月ニ回ノ休暇日ヲ夫々召集シテ出校セシメ一部ニ授業ヲナシ他ニ教授実習ヲナサシメタルニヨリ実習ノ回数ハ極メテ少ナカリシ、サレド各科毎ニ宿題トシテ問題ヲ与ヘテ期限ヲキツテ教授案ヲ提出セシメ其ノ批評ト校正ヲナシテ返戻セリ、実演ニ於テハ姉妹校タル樟蔭高等女学校、樟蔭東高等女学校ノ生徒ニヨリテナシタルモ其回数ハ前述ニヨリテ只僅ニ三、四回ヲ最長度トナシタルノミ、他ニ勤勞奉仕ノ都合上ナシ能ハサリキ	
			修練ニ於テモ同様勤勞ノ状況、出席ノ度数ト心構ノ動作ニ於テ常々監督教員ノ調査スル所トナリテ其ノ成績ハ採点法ニヨラズシテ甲、乙、丙、丁ノ四階級ニ分ケテ採点セリ	